

作品に使われているイメージは、報道写真や映像から得たものです。

近年では、様々なメディアを通して世界各国の報道を写真や映像で知ることができるようになりました。その量は膨大であり、次々に流れて目の前から消えていく情報を全て捉えることは不可能だと感じます。同時に、自分が生きている世界を捉えることができない不安を感じたり、焦燥感に駆られたりします。しかし、この膨大な情報の中にも、印象的な写真や映像があります。それらは私にとって、自分が生きている世界を捉える足掛かりとなってくれる存在です。

印象に残った写真や映像を元に、版を作り、紙や石膏に鉄粉を使って写し取ります。

「版画」は、紙や布などイメージをプリントする支持体の特徴と、版が持つ物質的な特徴が作品に自然と現れます。作品に写るイメージは、時間・場所・人物・出来事、全てが不特定になり、本来の意味から離れて、自由に解釈することができる余白が生まれます。作品に写されたイメージが何なのか考えることで、漠然とした現在や、社会の普遍性を捉えることに繋がると感じています。

また、メディアから得られる情報は、今後どのくらい保存されるのか、人の記憶にどのくらい残るのか、定かではありません。それに対して、石膏や和紙、鏝という素材で写るイメージは、化石や巻物のように長く残っていく可能性も感じています。

2022.07 田中 唯子